令和４年度（2022年度）

「市長と語る」の記録

あなたのみちを、
あるけるまち。
八王子

八王子市

は　じ　め　に

市民の皆様と市長との対話を通じて、市政への理解を深めていただくとともに、市政に対する意見や提言を市長が直接聴くことで市民の声が届く市政を推進することを目的に対話集会を開催しております。令和４年度（2022 年度）は、新型コロナウイルス感染症の収束がいまだ見込めないこともあり、ＷＥＢでの開催とし、発言者の方による写真や動画等での活動の紹介や、市公式ＹｏｕＴｕｂｅチャンネルでの生配信など、ＷＥＢならではの趣向を取り入れました。

今回は「私が行っている八王子の地域づくり」をテーマに未来を担う若い世代の方々を含む、幅広い年齢層の方９名にご発言をいただきました。

地域での活動や課題等を幅広い世代の皆様と共有することができましたことにつきまして、改めて感謝申し上げます。

本市では、地域の皆様がまちの魅力や課題について話し合い、こうありたいと思う未来に向けて取り組んでいく地域づくりを推進するため、地域の活動団体や住民で構成する地域づくり推進会議を設置し、地域の将来ビジョンや課題、具体的な行動計画の検討を行っています。多様な活動団体や住民が連携し、地域の中での支え合い、担い合いを通して、誰もが安心して住み続けられる地域を目指しています。今回いただいたご意見・ご提案は、現在取り組んでいる地域づくりの推進に活かし、更なる発展につなげてまいります。

目　　次

1　意見・要望等項目別件数 …… 1

2　テーマ等 …… 2

3　所管別内容

（1）所管別件数一覧表 …… 2

（2）所管別件名一覧表 …… 3

4　発言者及び市長コメントの要旨 …… 5

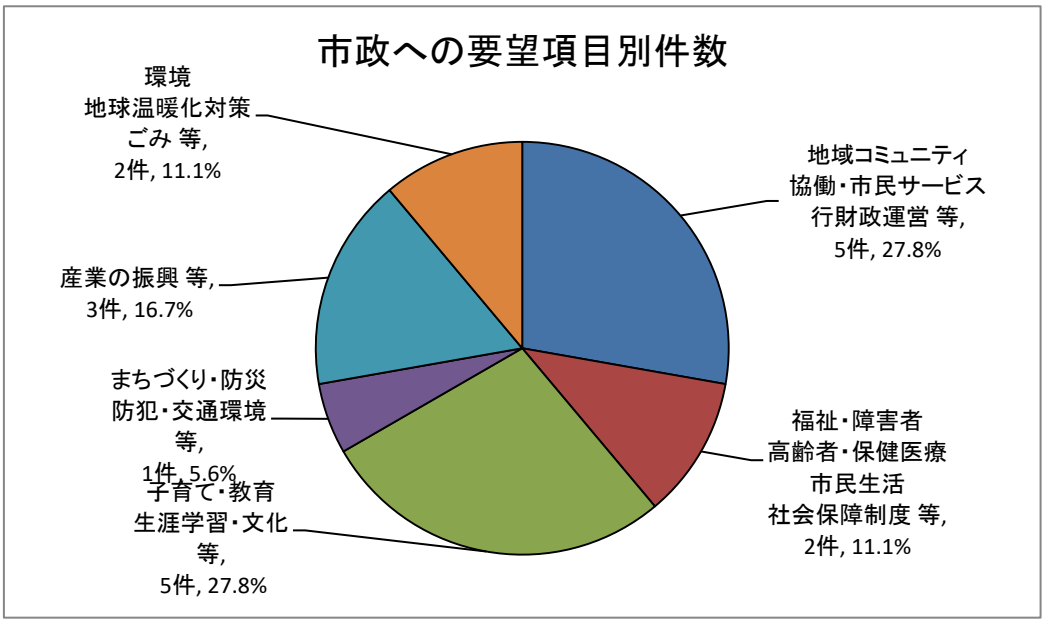
5　過去の提案等取組状況 …… 19

6　開催案内ポスター …… 22

1　意見・要望等項目別件数

意見・要望等項目の分野	件数
地域コミュニティ・協働・市民サービス・行財政運営 等 （第1編 みんなで担う公共と協働のまち）	5
福祉・障害者・高齢者・保健医療・市民生活・社会保障制度 等 （第2編 健康で笑顔あふれる、ふれあい、支えあいのまち）	2
子育て・教育・生涯学習・文化 等 （第3編 活き活きと子どもが育ち、学びが豊かな心を育むまち）	5
まちづくり・防災・防犯・交通環境 等 （第4編 安心・快適で、地域の多様性を活かしたまち）	1
産業の振興 等 （第5編 魅力あふれる産業でにぎわう活力あるまち）	3
環境・地球温暖化対策・ごみ 等 （第6編 一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち）	2
合　　計	18

※ 分野の区分は、基本構想・基本計画「八王子ビジョン2022」の都市像による。



2　テーマ等

（単位：人）

開 催 日	会 場	テーマ	発言者数
8月21日	WEBによる開催	「私が行っている八王子の地域づくり」	9

視聴用サテライト会場：八王子駅南口事務所（先着20名）

3　所管別内容

（1）所管別件数一覧表

（単位：件）

部　　名	件 数	部　　名	件 数
都市戦略部	1	産業振興部	3
市民活動推進部	5	環境部	1
生活安全部	1	資源循環部	1
市民部	1	まちなみ整備部	2
福祉部	2	学校教育部	1
健康医療部	1	生涯学習スポーツ部	3
子ども家庭部	3		
		合　　計	25

※一件の発言に対し、担当が複数の所管にまたがることがあるため、発言項目数と件数が異なる。

（2）所管別件名一覧表

都市戦略部　1件

案件番号	発　言　項　目
1	大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動

市民活動推進部　5件

案件番号	発　言　項　目
1	大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動
3	子育て中の保護者の心理的不安を解消する取組活動
5	天体観測をきっかけとした地域での学習活動
8	八王子の名産「八蜜」を活用した、地元の名産の魅力を伝える活動
9	食を通じた地域づくり

生活安全部　1件

案件番号	発　言　項　目
6	地域社会における非行少年等の社会復帰支援活動

市民部　1件

案件番号	発　言　項　目
1	大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動

福祉部　2件

案件番号	発　言　項　目
2	地元農家から発生した規格外野菜の有効活用
9	食を通じた地域づくり

健康医療部　1件

案件番号	発　言　項　目
9	食を通じた地域づくり

子ども家庭部　3件

案件番号	発　言　項　目
3	子育て中の保護者の心理的不安を解消する取組活動
4	高校生による地域の子供へのボランティア活動
6	地域社会における非行少年等の社会復帰支援活動

産業振興部　3件

案件番号	発　言　項　目
1	大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動
2	地元農家から発生した規格外野菜の有効活用
8	八王子の名産「八蜜」を活用した、地元の名産の魅力を伝える活動

環境部　1件

案件番号	発　言　項　目
7	里山の活動・文化再生活動

資源循環部　1件

案件番号	発　言　項　目
2	地元農家から発生した規格外野菜の有効活用

まちなみ整備部　2件

案件番号	発　言　項　目
1	大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動
7	里山の活動・文化再生活動

学校教育部　1件

案件番号	発　言　項　目
5	天体観測をきっかけとした地域での学習活動

生涯学習スポーツ部　3件

案件番号	発　言　項　目
3	子育て中の保護者の心理的不安を解消する取組活動
4	高校生による地域の子供へのボランティア活動
5	天体観測をきっかけとした地域での学習活動

４　発言者及び市長コメントの要旨

テーマ「私が行っている八王子の地域づくり
～地域で行っている活動や地域づくりに必要なことを教えてください。～」

令和４年（2022 年）８月 21 日（WEB 開催）

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
1	**【大栗川キャンドルリバーによる地域おこし活動】** 大栗川キャンドルリバーは、由木エリアの子どもたちに、「自分たちの地元は八王子なんだ。素敵な街なんだ。」と、大人になっても思ってもらいたいと思い、住民の皆さんで 2015 年から始めたイベントです。 年に一度、キャンドルを数万個、大栗川と大田川沿いに並べて実施しています。定期イベントとなりつつあり、テレビ東京のアド街ック天国で南大沢が特集された際に、取り上げていただけました。 活動していて嬉しいことは、子どもたちに限らず、私たち大人にも新しいコミュニティが誕生して、この由木エリアが日に日に活性化されているのを感じていることです。 活動における課題は、自主参加であるため、人が集まりにくいこと。八王子市の緑道等の使用許可がちょっと複雑かなと感じていること。あとは、完全ボランティア活動のため、近隣企業から募っている協賛金が、毎年の課題となっています。 2015 年には、「公園・夢プラン大賞 2015」で最優秀賞をいただき、全国的にも、注目されたイベントとなりました。ぜひ今年は市長にも来ていただきたいなと思っています。 （吉田　佳右 様）	大栗川キャンドルリバーのように多くの方を魅了する美しい風景は、本市のシティプロモーションサイトに「魅力的な景観」として掲載しています。まちへの「誇り」「愛着」「共感」をもち、まちのために自ら関わっていこうとする気持ちであるシビックプライドの醸成につながる活動だと考えています。 人が集まりにくいという課題ですが、学園都市である本市の強みを生かして、由木地域の大学の学生に呼びかけることができれば、交流の場にもなると思います。 公園、緑道の使用許可の手続きは、市の公園課、公園の指定管理者へ申請いただくほか、東京都の南多摩西部建設事務所との協議が必要ですが、市への申請は、指定管理者分と合わせて公園課で一括して申請を受けることができます。 資金面の課題についてですが、様々な民間企業や公益法人が地域活動に対する助成金等設けていますが、「八王子コミュニティ活動応援サイト　はちコミねっと」には民間企業などが実施している助成金等の情報を掲載しているので、参考にしてもらえればと思います。 地域づくりは人との繋がりが重要となります。キャンドルリバーの開催及び実行委員のメンバーが中心となって定期的に開催している由栗（ゆっくり）カフェは地元住民の交流の場であり、情報共有の場となっていると聞いています。こうした活動を通じて地域の人たちの居場所であり続	都市戦略部 市民活動推進部 市民部 産業振興部 まちなみ整備部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		けて欲しいと願っています。 　由木エリアで生まれ育った方たちも、そうでない方々にも、暮らしの中で大栗川をはじめとする地域資源に親しんでいただくことで、その素晴らしさを共に感じ、地元愛を育んでいただきたいと思います。 　これからも地域の魅力発信にご尽力いただき、観光資源となりうる可能性にも期待しています。次の開催の時には必ず参加させていただきたいと思います。	
2	**【地元農家から発生した規格外野菜の有効活用】** 　社会実装というグループワークの授業で、農家と連携をし、規格外野菜の有効活用を目指す活動をしています。 　地域活動を通じて実現したいことは、農家の廃棄野菜を減らすことや、安く野菜を手に入れたい方々が入手しやすくすることです。 　規格外野菜は味に問題はありませんが、見た目が商品としての規格を満たしていないため、市場に出回らず廃棄扱いになっています。フードロスにつながるため、アーバンファーム八王子様と協力し、規格外野菜を売買できるシステムを開発しています。これは、農家が出品した野菜を消費者が購入するものです。すでに同じようなサービスがあるため、新規性を出すために農家の負担軽減に着目しました。パソコンやスマートフォンを使わない農家の方にとって、野菜の写真を撮る、重さを量る、個数を入力する、値段を入力するということがハードルの高いものになってしまうため、農家の方が簡単に使えるデバイスの導入を考えました。 　値段についても農家の方が決めるのではなく、消費者が決めることで、適正価格で買えるため、オークション形式での売買を考えています。実際に昨年から活動し、	令和２年度、日本の食品ロス量は、522 万トンと推計されており、国民一人当たりに換算すると「お茶碗約１杯分の食べもの」が毎日捨てられていることになります。 　本市の可燃ごみの約４割は生ごみという状況です。そのうち３分の１が未利用の食品や食べ残しという、いわゆる食品ロスになります。規格外などの理由で廃棄される野菜の活用も、食品ロス削減に向けて必要な取組となります。 　本市では農業施策の柱の１つに「安全・安心な農産物の提供と付加価値農業・地産地消の推進」を掲げ、様々な施策を進めています。 　生産者が農産物を加工し、商品化する６次産業化のなかで、規格外の農産物を活用した取組も行われているところです。 　若い皆さんが、電子機器を使い慣れていない方への配慮を考えて、システム開発の主眼に置いていることが、非常に嬉しく、温かさを感じました。 　課題として、連携している農家の数が少なく、システムの実証実験を実施しづらいとのお話がありました。本市としては、システムの実証実験に協力いただける農家の方の紹介ができます。ごみ減量対策課までご相談いただければと思います。	福祉部 産業振興部 資源循環部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	現在、消費者向けには、消費者情報の登録、野菜の閲覧、消費者オークション形式の購入ができるように、また、農家向けには、タブレットで野菜の写真撮影、値段、重さ、個数などの入力ができるデバイスになっています。 活動して嬉しいことは農家の方、市のごみ減量対策課の方に、システムの試作を見てもらい、農家用のタブレットを褒めていただき、僕たちの考えたことが農家さんに役立つと実感できたことです。 次に、活動における課題は、連携している農家の数が少なく、システムの実証実験が難しい点です。今回、ぜひこれを見ていただいている農家の方がいれば、東京工業高等専門学校にご連絡いただければと考えています。 こういった連携を取ることで、またさらに八王子市の地域づくりに貢献できると考えています。 （宮本　明様）	紹介されていたシステムが完成し、市内の農家へ普及すれば、本市で進めている食品ロス削減に繋がります。今後もシステム開発が少しでも進むよう市でもできる限りの協力を行います。さらに、規格外野菜の有効活用が地産地消の推進にも繋がることも期待しています。	
3	**【子育て中の保護者の心理的不安を解消する取組活動】** 私は、20 年ほど市内で子育て中の保護者の心を支える活動をしており、今回は「星とおひさま Fika キャラバン」を紹介します。主に市内の小学校や生涯学習センターをめぐり、保護者が子育ての悩みや、日常のささいなことを話すことで、日頃の不安を共有でき、互いに認め合うことで、参加した方の自己肯定感をアップするような対話式リラクゼーションの場を作っています。 現在、保護者が学校に集まり、自由に話し合いができるチャンスが少なく、子どもたちがどのような環境にいるのかわからない。また、家庭での接し方はこれでいいのか。特に新１年生の保護者は、自分の事例を話し、それでいいと先輩に認めていた	保護者が子育てについて誰にも相談できず、一人で悩みを抱えてしまった結果、児童虐待に発展してしまう事案が全国で増加しています。お互いに悩みを共有できる場があることによって、一人で悩みを抱え孤立することなく子育てができる環境や、そのような場があることによって不安軽減に繋がり虐待予防の一助になると考えています。 近年、家庭状況の多様化や子育て家庭と地域とのつながりの希薄化などが進んでおり、家庭教育を支える地域に求められる役割が大きく変化しています。本市では、すべての教育の原点となる家庭教育を「いえいく」と呼んでいます。 家庭教育を支援するため、文部科学省で	市民活動推進部 子ども家庭部 生涯学習スポーツ部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	だくことで安心感が生まれます。 　開催時には、話し合った内容は他言無用であることをご理解いただき、お互いに心を開いて話し合います。 　この会は、まずアイスブレイクを行い、話し合える雰囲気作りを行った上で、なかなか話し出せない人にはファシリテーター役のスタッフが話を振ったり、話が偏り過ぎてしまわないように会を進めます。 　次に小学生向けには、バルーンを使った共同作業による互いを認め合うプログラムを行っています。子ども同士でできることやできないことが人にはあることを、お互いに認め合う多様性の理解につながっています。 　私からお願い事が２点あります。一つは、このような体験をできるだけ多くの保護者にしていただき、子育ての自己肯定感をアップしていただくため、市のサポートが必要と感じています。 　もう一つは、この会を通じて、保護者の方と話し合う中で「家庭以外に、子どもが勉強できる場所ができたら嬉しい」というお話を伺っています。現在、生涯学習センターでは、市民が使用予定のない部屋などを学生さんが勉強できる場として開放しています。さらに、可能であれば、市民センターなどでもぜひ開放教室を提供いただけると助かります。 （貴家　由美子 様）	は家庭教育支援チームの登録制度を設けており「家庭教育支援チーム、星とおひさまFikaキャラバン」は、本市唯一の登録チームとして、様々な地域で活動されています。 　本市でも、子育てや他の保護者、教員との接し方などに疑問や悩みがある保護者の心理的負担を軽減することを目的に、平成 27 年度に生涯学習センターで貴家さんの支援チームと協働で開催したワークショップをスタートとし、その後、学校でも支援チームと協働でワークショップを開催しています。参加者とのコミュニケーションをはかり、サポートしていただいており、参加者から好評をいただいていると伺っています。 　学生が安心して勉強できる場所の確保は重要であると考えています。生涯学習センターや中央図書館においては、施設の利用状況に応じ、自習スペースを設けています。また、子どもたちが安心して過ごせる居場所である児童館は、小学生や中高生が勉強や読書などもできる場所としても利用していただいています。 　市民センターでは、施設の状況に応じて、学習もできるフリースペースを設けていますが、設けていない市民センターについては、施設の状況を再度確認し、設置可能な場合は設置を進めるよう検討します。 　今後とも、すべての保護者が安心して家庭教育を行うことができるよう、お力添えをいただければと思います。	
4	**【高校生による地域の子どもへのボランティア活動】** 　高倉小学校放課後子ども教室「タカクラクラブ」で地域活動を行っています。 　小学生と高校生が共に遊ぶというこの活動を通して、お互いに積極性や協調	放課後子ども教室の推進委員や、小学校の先生も高校生が参加してくれていることをとても喜んでいると聞いています。 　放課後子ども教室は、放課後等に小学校	子ども家庭部 生涯学習ｽﾎﾟｰﾂ部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	性、心身の成長にもつながるため、高校と小学校の連携を強めていきたいと考えています。 　具体的な活動としては、ドッジボール、鬼ごっこなどをして子どもたちと一緒に遊んだり、子どもたちの活動のサポートを行っています。 　活動していて嬉しいことは、活動を通して、だんだん仲よくなって、小学生が話しかけてくれたり、遊びに誘ってくれることです。また、子どもたちとの遊び以外にも小学校の隣に高校がありながら、関わる機会の少なかった小学校と一緒に地域一体となった関係を作っていけることも嬉しいです。 　活動の課題としては、高校生は部活や勉強が多忙だったり、自主参加なので、ボランティアができる高校生の数が少ないということです。地域や学校でこの活動の知名度を上げ、ボランティア活動を活発化させていけたらと考えています。 （本多　優希 様）	を活用し、子ども達に安全で安心な居場所を提供するとともに、学び・体験・遊び・交流活動を行うものです。 　本市では、本年５月に、地域の人や、地域資源が子どもを支え、すべての子どもが安全安心な放課後時間を過ごせるよう、児童の放課後活動等の充実に向けた方針「学校は子どものホッとプレイス」を定めたところで、本多さん達のような高校生にも協力いただいていることを非常に心強く嬉しく思います。 　放課後子ども教室における、近隣高校の生徒による活動支援ボランティアについては、現在２か所で行っています。 　小学生にとっては年上の遊び相手ができ、学習サポートの充実などが期待され、高校生にとっては教育分野の就業を希望する生徒にとっての体験活動の場となるほか、校外のボランティアの場となるなど、小学生・高校生の双方にメリットがある充実した体験活動の場となることを期待しています。 　ボランティアの不足について、八王子市全体としても、放課後子ども教室では、運営や子ども達を見守る地域の担い手が不足し、継続的に実施することが困難な状況になっています。 　地域の実情に応じて実施しているものであるため、放課後子ども教室の運営方法やボランティアの受入れが可能かどうか、また、高校生の担い手が確保できるかどうかは、各地域の状況によって異なりますが、この地域活動が更に充実したものとなるように、多くの方に放課後子ども教室の事業を知ってもらえるように、広く情報発信していきながら、市としても放課後子ども教室を運営する団体と高校生とが情報共有し、意見交換できるように橋渡しをしていきたいと思っています。	

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
		本多さん達の活動は、八王子市の子ども達の健全育成にとって、非常に重要な役割を担っていると考えています。また、皆さんがこうした活動を通して得た経験が、今後の学習にも生かされて、次代を担う若者として、大いに成長されることを心から願っています。	
5	**【天体観測をきっかけとした地域での学習活動】** 私は寺田町のグリーンヒル寺田で「星空探検隊」という天体観測ボランティアを６年ほど行っています。 毎月最終月曜日に開催し、住民の皆さんが気軽に参加できるような企画にしています。 天体望遠鏡のほか、双眼鏡を１台ずつ貸し出し、宇宙を見ています。もちろん双眼鏡ですので、惑星がはっきり見えることはないですが、肉眼では見えないような小さい星がたくさん見えることがあり、宇宙とか夜空の様子がよく分かると思います。グリーンヒル寺田のあたりは環境が非常によく、天の川を確認することもできるので、皆さん喜んでいます。土星や木星、あるいはオリオン星雲を見るときには、高倍率の天体望遠鏡を使って観測を行っています。どの時期に、どういう天体が見えるのか、先月と比べてどうなのかが分かるようになっていますので、毎月継続して参加してもらうメリットはあると考えています。 夏休み期間には、子どもスペシャルとして、自由研究の一環で２回理科実験教室を開催しています。 令和４年度（2022 年）は７月の下旬に行い、水をペットボトルではない素材で運んでみようということからスタートし、水をゲル状の物質に閉じ込めるという実験教室を行います。大人も多数参加	本市では、小学校６年生を対象に科学的関心、意欲、科学的思考力等の向上を目的に「小学校科学教育センター事業」を実施しています。この事業は、歴史が古く昭和 33 年から続いている事業です。 このほか、学校以外の場で、科学に触れることができるよう、切れ目のない学習機会を提供しています。 例えば、市内で唯一プラネタリウム施設を備えたこども科学館では、大人から子どもまで、科学に触れ、学べるとともにプラネタリウムの映像を楽しみながら、星空を勉強することができます。また、市民、事業者、市内学校が協働して実施する「八王子宇宙の学校」では、JAXA から提供されたテキストをもとに、小学校１年生から３年生を対象に、身近な事象や科学実験を通して、地球だけでなく宇宙も知ることができます。ここでは、講師以外にアシスタントとして市内の大学生や中高生の皆さんに活躍していただいています。 藤田さんに講師としてご協力いただいている本市の星空観望会では、望遠鏡を使った天体観測のほか、身近な双眼鏡を使った天体の観測方法や、宇宙をテーマにした講義をしていただき、参加者は宇宙や星に関する知識を学びながら、星空観測を市民に体験してもらっていると担当から聞いています。 多くの人に天体への好奇心を抱かせ、楽	市民活動推進部 学校教育部 生涯学習ｽﾎﾟｰﾂ部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	しており、道具は全て自宅で用意できるものなので、各種資料をそろえて、家に帰ってからも体験できるよう実施をしています。 実験教室は夏休みだけではなく、天体を観測できない雨や曇りの日にも実施し、毎月最終月曜日に来れば、何か理科に関する学習ができる環境を提供しています。 ボランティア活動の範囲で行っていますので、現時点で特段の課題はないですが、多くの人に星を見ることでの感動や、科学体験の素晴らしさを知ってもらいたいため、ほかにも人が集まりやすい所で、こういう催しができるかなと考えているところです。 （藤田　貢崇 様）	しみにした人同士で自然と交流が生まれている様子は、学びの循環を促すものであり、本市が目指す姿を体現していると感じました。 多くの方に天体観測の素晴らしさを知っていただきたいとお話されておりましたが、団体として活動を行っている場合には「八王子コミュニティ活動応援サイトはちコミねっと」に登録していただくと、簡易なホームページを持つことができ、活動紹介やイベント、ボランティア募集など広く市民に情報提供できるとともに団体を広く知ってもらうことができます。 星空を見上げ、宇宙に思いをはせる機会を持つことは、これから次代を担う子どもたちにとって、夢を持つ大切なきっかけになると思います。 引き続きこの活動を続けていただき、宇宙や科学の素晴らしさを伝えていって欲しいと願っています。	
6	**【発言要旨 地域社会における非行少年等の社会復帰支援活動】** 八王子ＢＢＳ会は、八王子市を中心として、地域社会における非行少年や社会不適応少年のいない社会、犯罪や非行のない明るい社会の実現を目的として活動しています。 「非行防止活動」では、青少年や地域に働きかけて犯罪や非行のない社会環境づくりを行っています。毎年７月に「八王子市社会を明るくする運動」のスタッフとして参加し、犯罪や非行のない地域社会づくりを担う一員として駅頭に立って、市民への広報物配布や、イベントの補助員も行っています。 「社会を明るくする運動」の一環で行った活動には、非行や罪を犯した人の社会復帰を支援する更生保護という運動があり、理解促進を目的として、更生保護キャラク	八王子ＢＢＳ会の皆さんには、日頃より、本市の更生保護活動にご協力いただき、感謝申し上げます。 地域を支える若者の活動が盛んになることは、地域活動の担い手が減少している地域社会の活性化につながると思います。 本市では、令和３年４月に「八王子市再犯防止推進計画」を策定し、犯罪や非行をした方が更生するうえで抱える課題を、地域全体で解消するための施策を展開しています。犯罪や非行のない安全で安心な地域社会の実現を目指すために「社会を明るくする運動八王子市実施委員会」を組織し活動しています。 本運動の活動の一環として、７月にＪＲ八王子駅周辺において、市内更生保護団体の皆様とともに、啓発を兼ねた清掃活動を	生活安全部 子ども家庭部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	ターを描いた「連凧」を作成し、図書館に掲示していただきました。この活動も、コロナ禍に入り通常の活動ができない中で考え出されてできた活動となります。 続いての活動が「社会貢献活動への参加協力」です。私たちは非行少年たちと一緒に、保護観察所が実施する農作業体験などの社会貢献活動に参加しています。市内にある「とうきょう元気農場」で非行少年と一緒に農作業体験をしました。 最後に紹介する活動は、当会が独自に開催している二つの事業です。主催事業の一つ「さがしてクッキング」は、非行少年、そして彼らを支える保護司や保護観察官、我々ＢＢＳ会員が一緒のグループになり、レシピなしで創作料理を作る活動です。料理には、非行少年と一緒に農場で育てた野菜を使用しています。自ら育てた野菜を自らの手で調理し、食すことで、非行少年自身も身近にある食を見直すきっかけにしてもらうことがこの活動の大きな目的の一つです。 もう一つの主催事業「親子ふれあい工作教室」では、子どもの健全育成、親子の絆づくり、そして地域の人同士の触れ合いというものを目的に凧作り教室を行っています。例年、市内の二つの小学校の体育館を借りて、地域の親子などを対象に、「日本の凧の会」の会員を講師に迎え、世界文化遺産である細川紙にオリジナルの絵を描いてもらって凧を作り、参加者で凧揚げを行っています。 今回紹介した活動は本当に一部で、様々な活動を当会では行っています。 活動における課題は二つです。１点目は、コロナ禍により対面活動を原則としていた様々な活動機会が減少してしまったことです。少年や子どもたちと関わる際には、実際に会って話したり触れ合いを通す	実施し、八王子ＢＢＳ会の多くの学生さんにもご参加いただきありがとうございました。 この他、地域連携による青少年健全育成の取組や、若者の悩みに対する相談等も行っています。 困難を抱える子どもたちに寄り添い立ち直りを支援する活動は、子ども・若者が人と人との関わりの中で、自己肯定感や社会性を育むことにつながるものであり、大変意義があることだと考えています。 課題として、多くの若者に更生保護活動に理解を深めていくことに難しさを感じているとのことでしたが、本市としても、地域活動や社会貢献活動などに対する、若者の関心を高め、参加促進への気運の醸成につながる情報発信等は課題と捉えています。 ご紹介いただいた地域における非行少年や、社会不適応少年の支援活動は、本市の再犯防止推進計画を推進する取組であり、市としても八王子ＢＢＳ会の活動を広く市民に理解してもらうため、活動などを広報していきたいと考えています。 犯罪や非行をした人の多くは、様々な「生きづらさ」を抱えています。「就職ができない」「住居を確保できない」など、地域社会で生活することが困難な状況にある人も多く、そのことで犯罪を繰り返してしまうことも少なくありません。こうした課題に対し、本市では、就労・住居の確保や適切な福祉的支援によって、社会的孤立を防ぎ、犯罪や非行をした方の「立ち直り」を地域全体で支えていくための施策を展開し、市民生活の更なる安全・安心につなげていきたいと考えています。 本市は「犯罪や非行のない安全で安心な地域社会の実現」を目指していますが、その実現には、八王子ＢＢＳ会が行う「社会	

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	ことで、相手との信頼関係を築くことができ、効果的な支援や本来の意味での交流につながっていることを改めて認識させられました。対面活動でしか得られない価値を実現させるために、感染症対策を講じつつ、できるだけ今までと同じように対面の活動ができないかを模索していますが、この点に大きな課題があると感じています。 二つ目の課題は、より多くの若者に更生保護活動への理解を深めることに難しさを感じていることです。私たち八王子ＢＢＳ会は青年のボランティア団体なので、新しい会員を獲得することにおいてはもちろん、非行少年の立ち直りには地域の方々の理解や連帯が不可欠であると考えており、地域社会の中で活動に理解ある方をさらに増やしていきたいと思っています。また、多くの若者や青年の皆さんに私たちの活動を知ってもらいたいと考えています。しかし、新しい会員の獲得に困難を感じたり、ＢＢＳ会の存在や、更生保護という言葉がなかなか浸透しなかったり、理解促進にはまだまだ難しさがあるというのが現状と思っています。 （長谷川　昂輝 様）	貢献活動」「非行防止活動」などの取組は、非常に貴重であり重要です。様々な問題や困難を抱える若者に寄り添いながら、立ち直りを支えていくために、今後も、八王子ＢＢＳ会と市が連携しながら、更生保護の取組を力強く推進していきたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いします。	
7	**【里山の活動・文化再生活動】** 人と自然とが穏やかに調和する里山の活動を紹介させていただきます。 四季折々の活動、そこには様々な出会いとつながりがあります。みなみ野自然塾の活動を始めて今年で 25 年を迎えました。公園アドプト制度の下、市と協働して栃谷戸公園と宇津貫緑地を拠点として活動しています。活動のモットーは「楽しむことを第一に」です。それが私たちの暮らすまちづくりにつながると考えています。 里山の技、文化は、94 歳になる橋山春男塾長から学んでいます。田植えは市民の方々や、みなみ野小学校の５年生も一緒に	環境面だけではなく、活動を通じた地域コミュニティの形成も含め、非常に意義のある活動だと感じました。 栃谷戸公園は「八王子八十八景」及び「関東富士見百景」に選ばれています。「みなみ野自然塾」には、公園アドプト制度に登録いただき、公園の維持活動をしていただいており、八王子が誇るすばらしい景観の維持にご協力いただいていることに感謝申し上げます。 環境教育・環境学習の推進には、様々な関係者の皆さんとの協力が必要です。そこで、市では、市民・事業者、及び環境保全	環　境　部 まちなみ整備部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	活動に取り組んでいます。コロナ前の年間参加者は延べ 4,000 人にわたります。 多様な生き物と共生していることを実感しています。 ６月には、ゲンジホタルとヘイケボタルが見事に舞います。 トンボが卵を産んだり、水の中にはタイコウチがいます。雑木林にはアナグマがいたり、キツネノカミソリが咲きます。稲の花も咲き始めます。 秋は収穫の季節を迎え、栃谷戸公園では畑作も行っています。サツマイモ掘り、稲刈りなどの作業をオープン活動として市民の方々にも参加してもらっています。 11 月の収穫祭では、丹精込めて作った作物を一緒に味わいます。芋煮では、みんなで「いただきます」をします。その「いただきます」という一言に、いろいろな思いが込められていきます。このようなささやかな営みの中から、これからの時代の里山とその活動の意義、価値を見いだしていきたいと思っています。 冬の宇津貫緑地は、月、星空が美しく、また雪の日は幻想的です。キツツキたちの姿もあります。 最後に、私たちの暮らすまち、その原風景を市と協働して私たちの手でつくっていく。これまでの歴史、文化、技を引き継ぎ、楽しむことを第一に今を生き、そして未来を始める。市民の多彩な活動の輪が、互いに支え合いながら、さらなる八王子の魅力をつくり出していければと思っています。それが私たちの願いです。 （荒井　嘉夫 様）	団体等と連携し、環境学習施設であるエコひろばを中心とした環境教育・環境学習の拠点の構築に取り組んでいます。 子どもたちが自然の大切さを学べるよう、総合的な学習の時間を利用した体験型の「みどりの学習」を小中学校向けに行っており、今年度は上川の里や高尾の森自然学校で行いました。さらに、宇津貫緑地での実施も予定しています。 本市では「八王子市みどりの基本計画」に基づき、みどりを守るパートナーづくりとして、里山を含めたみどりの活用や保全につながる体験・人材育成を推進することとしています。 里山の活動において人材育成の必要性は高まっていますので、現在、緑地の保全を行う人材育成事業について検討しています。体験活動・講習会などの参加者が各地域の緑地保全の活動に関わっていくことを期待しています。 さらに、自然、環境等に関わっている団体等のネットワークを広げていくとともに、相互の活動情報を共有する場をつくることで、各団体の連携や課題解決につなげていけるよう支援していきたいと考えています。 里山等のみどりは、CO2 の吸収による地球温暖化防止や水源域としての水量の確保・水質の浄化作用等だけでなく、憩いの場や景観の形成にも役立ちます。このようなみどりの機能を発揮するためには、みなみ野自然塾が行っているような保全活動が非常に重要であると考えます。 また、公園の日常的な清掃や除草を行う公園アドプト団体との協働は、公園や緑地を良好な状態に保つために重要であり、これからも引き続き活動をお願いしたいと思います。	

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
8	**【八王子の名産「八蜜」を活用した、地元の名産の魅力を伝える活動】** 私たちは、「八王子のはちみつ」の八と蜜と文字った「八蜜」をテーマに、お店の力を借りた商品開発など、三つの活動を行っています。 一つ目が、八蜜のレシピの自主的開発です。コロナ禍でおうち時間の増加もあり、家で簡単に再現できるレシピの開発並びにその広報を、自分たちで開設したインスタグラムを通して八蜜を知ってもらう目的で始めました。様々なフルーツを利用して作成した八蜜シロップを、ソーダで割ったりアイスクリームにかけたり、おいしく食べてもらえるレシピを完成させ、広報しました。 活動の二つ目は、大学周辺のカフェで、八王子名産の八蜜を利用した新メニューの販売を行いました。地場産の野菜や、無農薬の野菜に非常に力を入れている「Ouchi Café」というカフェで、八蜜を使っていただくことにより、生産者もカフェの方も、またそれを食べに来る方々にも、八蜜を知っていただく機会になると考えたからです。八蜜を利用したベイクドチーズケーキでは、お店の方と、どのようなメニューを提供するかというお話をさせていただき、２か月ほど販売を行いました。結果、200 食程度販売することができ、この商品を通して八王子市の花々の美しさや、八蜜のおいしさを伝えることができたと思っています。 三つ目の活動では、高尾山で同様の新メニューの販売を行ってきました。先ほどのカフェでの販売ですと、市内の方が中心となってしまいます。市外や都外の方にもっともっと八蜜を知っていただける機会を作るため、老若男女、多くの方	高橋さんたちの活動は、地産地消の促進や、地元産品の付加価値を高めることにつながるものです。本市が進めている施策にも合致しており、学生の皆さんがこのような活動を行っておられることが嬉しく、頼もしく感じました。 「八蜜」プロジェクトは、大学コンソーシアム八王子の行う「学生企画事業補助金」の令和３年度交付対象事業となり、広報活動やアンケート調査による顧客分析等を行ったと聞いています。 自分達が開発した商品の感想を、消費者から直接聞くことが出来たということは、非常に貴重な経験だったと思います。今後も「八蜜」プロジェクトやそのほかの名産品で地産地消に向けた取組を行う際には、大学コンソーシアム八王子の「学生企画事業補助金」で支援させていただくことも可能です。 経験を後輩に引き継いでもらい、今後も八王子の魅力を発信する素晴らしい商品を開発していただきたいと願っています。 本市では関係機関と連携し、農産物を生産から加工そして商品につなげるといった６次産業化による特産品の開発や地域ブランド化などの取組を推進しています。「八蜜」をはじめとする本市の産品や、それを活用した新商品の周知活動を通じ、本市の魅力発信、知名度向上や産業振興に寄与する地域活動として期待しています。 また、本市は高尾山をはじめとする様々な観光資源を有しており、多くの観光客にお越しいただいています。観光地としての魅力を高めるためにも、今後の八王子の新しいお土産として定着するような取組にも期待しています。 本市は、市内に 21 の大学等を抱える学園	市民活動推進部 産業振興部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	が観光客として訪れる高尾山で新メニューの販売を行えればと思い、ケーキを販売することになりました。こちらも最初の販売同様に多くの方に食べていただき、この販売期間に実施したアンケートでも、「八蜜を買ってみたいです」とか、「本当にこんなすばらしい名産があるのを知らなかった、嬉しい」という声をいただきました。 活動を通して私が地域で実現したいことは、地産地消が促進されることで、市民の皆さんが八王子市に対する誇りや地元の名産の魅力を感じていただけるような環境があればと思いました。 また、今回の私たちの活動のように、直売所のような形で野菜等を販売するだけでなく、農家や飲食店の方など、事業者同士がお互いローカルなつながりをつくっていければ、もっと魅力的なまちづくりになると思いました。 私たちは八蜜がテーマでしたが、後輩がパッションフルーツをテーマに活動しています。引き続き、市にも名産品の周知や地産地消の促進にご協力をいただければ幸いです。 （高橋　耀平 様）	都市です。大学等と地域がともに発展するまちづくりを目指しており、「まるごとキャンパス八王子」と題し地域全体で学生の学びを支援しています。 地域をフィールドとして学生が実践的な学びを得るとともに、その学生の活動により地域がさらに盛り上がる、そんな高橋さん達のような取組が今後も増えると良いと考えています。 学生の皆さんには地域で学ぶことを通じて八王子の魅力を発見し、地域を構成する一員として活躍してもらいたいと思います。地域に愛着を感じるきっかけとなり、ひいては八王子に住み続けたいと思っていただけたら嬉しく思います。「学生企画事業補助金」をはじめとした大学コンソーシアム八王子の事業を通じ、地域と大学等がともに発展するまちづくりに取り組んでいきたいと思います。 今回の活動で得た貴重な経験を活かし、卒業後も八王子を舞台に活躍していただくことを期待しています。	
9	**【食を通じた地域づくり】** 私は、館ケ丘団地の中で地域食堂「たてキッチン“さくら”」を運営しています。 館ケ丘団地は住人が 2,800 人ぐらいで、高齢化率 58%の団地です。孤独死、病気の方の救急の搬送が遅れて本当に大変な状況になることが度々あります。 2016 年には、団地に１軒しかないスーパーマーケットが閉店してしまい、買物難民がたくさん出ることを想定し、主婦が立ち上がって、みんなでお弁当作りを始めました。そして「団地応援隊」とい	近年では、少子高齢化を背景に、一人ひとりの暮らし方や生活環境が多様化していますが、市としては、高齢者になっても安心して暮らし続けられるように、多くの方が様々な場面で高齢者の皆様の暮らしを守り、支えていく体制づくりをさらに進めて行きたいと考えています。 その中でも地域の自主的な活動は、住民同士の交流を育むことができますし、社会参加を促進するきっかけにもなっています。 水谷さんの活動は、本市の目指す「健康	市民活動推進部 福祉部 健康医療部

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	う、住民の方を応援する組織ができあがりました。 私たちは、食べることは生きること、そして健康をテーマにして、「たてキッチン“さくら”」を 2018 年に開店、運営しています。地域住民の主婦の皆さんが 40 人ほど集まって、月曜日から金曜日までお総菜を作って販売しています。 館ケ丘団地は本当に独居高齢者の方が多く、1,600 人の高齢者人口のうちの 800 人が独居の方です。コロナによる外出自粛の中でますます閉じ籠ってしまう高齢者をどんなふうに支えていったらいいのか、みんなで毎日、顔を合わせながら見守っています。 お弁当は、高齢でなかなか外に出られない方、病気の方を対象に、日々40 人ぐらいの方に配食しています。配食は地域のボランティアにやっていただいています。月・水・金を基本としていますが、毎日必要な方もいらっしゃいます。 また月曜日から金曜日には、お総菜を作って店頭販売をしています。コロナ前は１日に 80 人から 90 人の方が来て、店で会食もしていました。今、コロナ禍ではありますが、５、60 人の方が来て 200 パックのお総菜が１時間ほどで売れてしまうという現状があります。 買いに来る方の３分の１は高齢の男性で、やはり男性の方がお食事に困っておられることが大変よく分かります。来店をしてくださる方に、いろいろ様子を伺っていると健康状態や生活の状況が分かりますので、包括支援センターなどと手を結んでサポートをするということもしています。 昨年度は、80 品目ほどのお惣菜を作って売っていますが、しっかりとしたものをお届けしたいということでその中の 42	で、笑顔あふれる、ふれあい、ささえあいのまち」を具現化するために、健康寿命の延伸、生活習慣病の発症予防、及び重症化予防となる「食」を通じた健康づくりに、大変、貢献していただいていると思っています。 本市では、地域の飲食店と一緒に食事を通した健康づくりを進める「はちおうじ健康応援店」という取組も行っています。 「たてキッチンさくら」さんには、すでに「はちおうじ健康応援店」にご登録をしていただいており、連携させていただいているとも伺っています。これは、健康寿命を伸ばし、誰もが住み慣れた地域で支え合い、健康でいつまでも元気に生きがいを持って暮らしていけるよう「自分で、家庭で、地域で、笑顔あふれる健康なまちづくり」を目指すものです。特に、健康に関心が低い方や若い世代にアプローチができるよう、飲食店、惣菜店などと連携して、食環境の整備を進めています。 ボランティアに関しては、担い手の高齢化や活動に際して必要となる交通費などの負担が課題となるケースがあり、民間企業や大学などの多様な方々とも連携して取り組んでいくことが重要であると思います。 また、団地内の高齢化率も高まり、コロナ禍で家族の往来が制限される中、見守り・声掛けなど様々な手法を組み合わせて地域の高齢者の皆さんが安心して生活できるよう見守り体制を充実させていくことも必要であると考えています。 館ヶ丘団地内で、「食べる」ことを通した健康づくり、食を通した安心・安全な地域づくりを日々続けられ、作ったお惣菜も毎回、完売し、地域の方々にとってなくてはならない存在になっていると思います。 多くのボランティアの皆さんのご協力の	

案件番号	発言要旨（発言者）	市長コメント要旨	担当所管
	品目の栄養分析をしていただきました。分析をしていただいた先生からは、バランスの取れた塩分の少ない、いいお総菜だという嬉しい講評もいただき、自信を持ってやっているところです。 　私たち、「たてキッチン“さくら”」のお弁当とお総菜は住民の皆さん方の生きることを支える、ドアからドアの食事の提供による住民のための住民による地域包括ケアであると思っています。さらには、日頃のお付き合いから災害時の「たてキッチン“さくら”」を、みんなで今、話し合っているところです。 　健康、安全・安心、つながり、防災、人が元気に生きるための要素が詰まった地域食堂を目指して日々活動しています。 　安価でおいしいお総菜とお弁当による地域住民の健康づくりを、月１回のさくら保健室では専門職が住民の健康の見守りを、配食サービスを通じて病気や高齢のために外出困難な方の生活支援を、食を通して人と人をつなぎ孤立や孤独死の予防を、多世代の地域の人たちも呼び込むボランティア活動を通して元気な地域づくりを、また、現在はコロナ禍で「子どもランチ」が途絶えていますが、「子どもランチ」を通して子どもの健やかな成長を育むことを、赤ちゃんから高齢者まで、ここに住んでよかったと思える地域づくりを目的にやっています。 （水谷　徳子 様）	もと、地域づくりに貢献いただき、地域の元気の源となっています。新たなボランティアの皆さんに参加していただき、ますます地域が元気になるよう、市も共に取り組んでいきます。今後も活動が、ますます発展していくことを願っています。	

5　過去の提案等取組状況

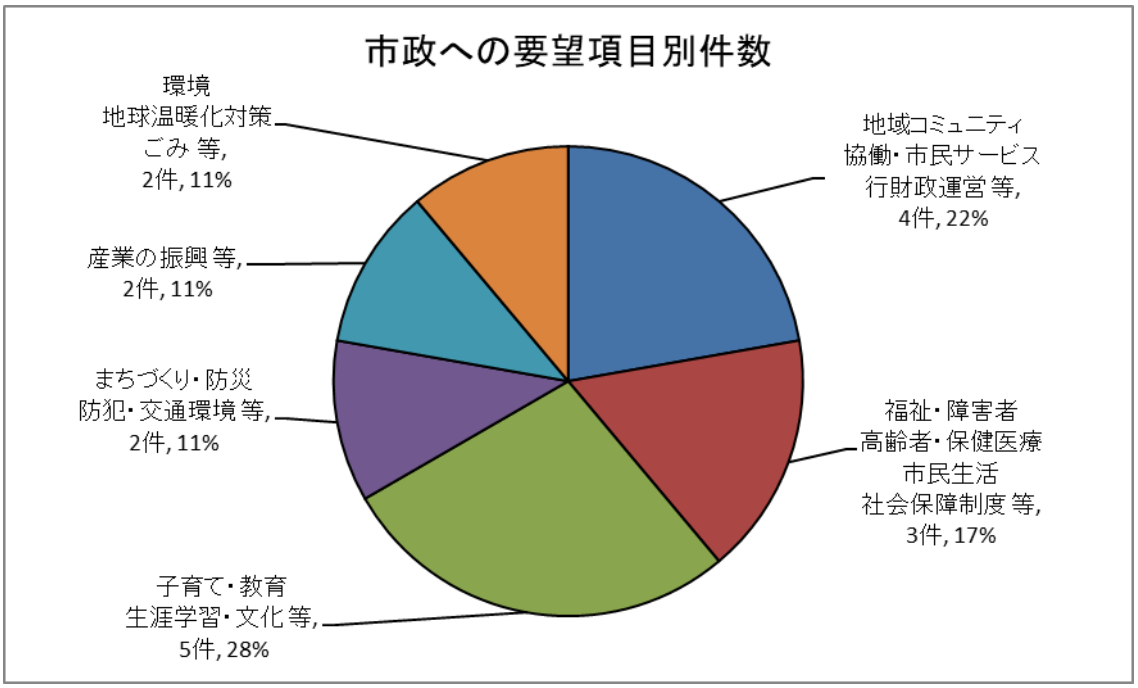
令和３年度（2021 年度）「市長と語る」の提案等取組状況

開催実績　テーマ：「私が考える未来の八王子」

（単位：人）

開催日	会　場	テーマ	発言者数
11 月 27 日	生涯学習センター（クリエイトホール5階）	「私が考える未来の八王子」	11

※新型コロナウイルス感染症対策のため無観客で実施



次ページから、令和３年度（2021 年度）の「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案とその後の取組状況の一例をご紹介します。

３年度（2021 年度）「市長と語る」でいただいたご意見・ご提案と市の対応状況（一例）

＜意見＞　「日本一の教育都市　八王子の実現」について

学校教育に地域の力を取り入れ、子どもたちにたっぷりと愛情をかけ、学力をしっかり定着させることで、子どもたちは自己肯定感を高め、確かな学力を土台に健やかに未来に向かって成長すると思う。

中核都市としての地域人口と、地域の大学を数多く抱える八王子市の強みを最大限に活かすよう市長にお願いしたい。

≪市長発言（当日）≫

市民学習ボランティアに関連するものの一つとして、「放課後の居場所提供」を主な目的とする「放課後子ども教室」という事業を実施している。校庭での外遊びが中心であり、また、スポーツや芸術など、様々な活動プログラムといった体験活動の機会を提供する場でもあるが、活動を担っている運営団体の中には、地域で学習を支援するプログラムを実施しているところもあり、こういった取組みをさらに進めていきたい。

また、英語教育の充実や国際理解を進める取組みとしては、小学校５・６年生を対象とした市内大学等からの留学生との交流事業があり、子どもたちは日々の授業で学んだ英語を使って留学生と交流活動を行うことで、外国の言語や文化についての理解を深めていくとともに、外国語を用いてコミュニケーションを図る機会を得ることができている。

【その後の対応】

地域人材の効果的な活用及び新たな人材確保を目的に教育支援人材バンクの制度を、令和４年度から「学校支援ボランティア人材バンク」として変更する。（令和４年４月１日～施行）

広報はちおうじ（令和４年３月１日号）でボランティアを募集したほか、今後は市内大学や団体等への働きかけを行い、本事業の更なる充実を図っていく。

＜意見＞　「町会活動を若者の活動の場にすることによる活性化」について

地域活性化ということを言われるが、その再構築のキーワードが「若者の活躍」と「情報の共有」だと思う。町会が存続の危機に瀕しているのが課題。町会は今、非常に会員が減少しており、地域の活動や、会の魅力自体も減少しており、結果的にその地域の生活基盤の崩壊が懸念されている。若い方の加入が少なく、役員の負担が大きい。

LINE 等を使って町会の情報を、町会に入っていてもいなくても見られるようになることを考えている。縁の下の力持ちになって、若い人たちが町会の中で活躍できるような形になるとよい。

≪市長発言（当日）≫

本市にとって町会・自治会は、行政と地域住民を結ぶ中心的な組織であって、また、地域コミュ

ニティの形成にとっても、重要な役割を担っている。
　近年、高齢者世帯も増えており、地震や豪雨等の自然災害も多くなる中、地域住民のつながりや災害時の共助の視点から町会・自治会の重要性は高まっている。
　令和３年度中にデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）推進計画を策定し、市民、企業、大学及び町会・自治会等と連携して、デジタル技術を活用した地域共生社会の実現に向けて取り組んでいく予定で、町会活動への若者参加、高齢者へのデジタル支援は、本市も進めていくべき取組みと方向性を同じくするものである。

【その後の対応】
**　令和４年２月にデジタル・トランスフォーメーション（ＤＸ）推進計画を策定し、公表した。今後、計画に基づく具体的な事業や目標値を示したアクションプランを令和４年７月までに策定し、市民、企業大学及び町会・自治会等と連携し、デジタル技術を活用した地域づくりに取り組んでいく。**
**　スマートフォン等の操作が苦手な方が身近な場所で気軽に相談や支援を受けられる仕組みを構築するため、地域の団体やグループ等を対象とした講師派遣型のスマートフォン教室を令和４年度から実施する。**
**　町会・自治会活動について、デジタル化をしている町会・自治会の取組を市のホームページに掲載予定。**
東京都が実施している「地域の底力発展事業助成（デジタル活用支援）」や「講師おまかせ教室（令和４年度実施予定）」について、町会・自治会に情報提供を行う。

6　開催案内ポスター

令和4年度（2022 年度）

市長と語る

テーマ

私が行っている八王子の地域づくり
～地域で行っている活動や地域づくりに必要なことを教えてください。～

協働のまちづくりに向けて、市民の皆さんと市長が直接語り合う対話集会です。
あなたが行っている「地域活動」や「地域づくり」について、お聞かせください。

開　催　日　時	実施方法
８月 21 日（日） 午後２時～３時３０分	**WEB 方式**（オンラインによる発言・視聴）

参加方法

発言を希望する場合

WEB 会議ツールにより、ご自宅からご発言いただけます。
事前申込みが必要です。７月 20 日（水）までにお申込み下さい。

- ✧ チラシ裏面「発言申込書」を郵送または FAX で申込み
  （チラシは市内各事務所、市民センター等で配布しています。）
- ✧ 市ホームページから申込み（下記 URL または２次元コードからアクセス下さい）

留意点

- テーマに関わる内容以外のご提案は、ご遠慮願います。
- 申込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。
- 申込み結果につきましては、後日連絡いたします。
- 発言決定者には、事前の通信テストにご協力いただきます。

※パソコン・インターネット環境がない方向けにサテライト会場を設置します。
（会場の詳細については、発言決定者に対し個別にお知らせします）

視聴のみの場合

下記 URL に視聴用のリンクを掲載します。パソコン・スマートフォン等でご視聴下さい。

※パソコン・インターネット環境がない方向けに八王子駅南口総合事務所にサテライト会場を設置します（先着 20 名様）。
なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によりサテライト会場の設置を中止する場合があります。

あなたのみちを、あるけるまち。八王子

【発言申込み・視聴】 八王子市ホームページ「市長と語る」
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/002/005/007/p014146.html
【お問い合わせ先】八王子市 総合経営部 広聴課
〒192-8501 八王子市元本郷町３－２４－１　☎ 620-7411（直通）/　FAX 620-7322

令和４年度（２０２２年度）「市長と語る」の記録
令和５年（2023 年）１月

発行：八王子市　総合経営部　広聴課
〒192-8501 八王子市元本郷町３-24-１
電話 042(620)7411（直通）
FAX　042(620)7322